

# 新花巻図書館整備基本・実施設計業務委託プロポーザル 審査講評

## 1 概要

本プロポーザルでは、各分野を代表する5名の専門家と副市長により組織された選定委員会において、実施要領等を策定の上、「第一次審査」及び「第二次審査」を行い、参加者から提出された企画提案書等について慎重かつ厳正な審査により最優秀者（優先交渉権者）及び次点者を選定した。

### (1) プロポーザル選定委員会

区分	分野	氏名	所属・役職
委員長	建築設計	乾 久美子	横浜国立大学大学院／建築都市スクール Y-GSA 教授
副委員長	図書館理念・実装	吉成 信夫	元・みんなの森 ぎふメディアコスモス総合プロデューサー、東海国立大学機構参与、明石市本のまち推進アドバイザー他
委員	建築計画 都市計画	小野田 泰明	東北大学大学院工学研究科 教授
	建築設計 環境建築	竹内 昌義	東北芸術工科大学デザイン工学部 建築・環境デザイン学科 教授
	図書館学	早川 光彦	富士大学経済学部経済学科 教授
	行政	松田 英基	花巻市副市長

### (2) プロポーザル実施経過

日程	内容	備考
令和7年7月11日（金）	<u>第1回選定委員会</u>	
令和7年7月24日（木）	実施要領等の配付（公開）	
令和7年9月17日（水）	参加表明書、第一次審査書類の提出期限	61者提出
令和7年9月26日（金）	<u>第2回選定委員会（第一次審査）</u>	第二次審査対象者選定（6者）
令和7年9月30日（火）	第一次審査結果通知	
令和7年11月19日（水）	第二次審査書類の提出期限	6者提出
令和7年11月24日（月）	<u>第3回選定委員会（第二次審査）</u>	最優秀者及び次点者選定

## 2 選定結果

選定委員会では、最優秀者（優先交渉権者）及び次点者は以下のとおり選定した。

最優秀者（優先交渉権者）	昭和設計・t デ・山田紗子建築設計事務所共同企業体
次点者	西澤・畝森設計共同企業体

## 3 審査経過

### (1) 第1回選定委員会

- 日時： 令和7年7月11日（金）13：30～15：15  
場所： オンライン会議  
内容： 委員長・副委員長の選出、プロポーザル参加資格要件の協議、  
実施要領等プロポーザル書類に関する確認・協議等

### (2) 第2回選定委員会（第一次審査）

- 日時： 令和7年9月26日（金）15：00～18：30  
場所： AP 東京駅八重洲 12階 D+E ルーム（東京都中央区京橋 1-10-7）  
議事： 企画提案書等の審査、第二次審査対象者の選定  
概要： 第一次審査では、参加表明書の内容に基づく定量的評価（技術提案書提出者の能力、配置予定技術者の能力等）並びに、定性的評価（計画に関する考え方、チームやプロセスのコーディネート）をもって総合的に審査を行った。  
最初に、参加表明があった61者について、本プロポーザルの参加資格要件を満たすこと、失格基準及び留意事項における禁止事項等に抵触していないことの確認、参加表明書の内容に基づき事務局が行った定量評価の結果について共有した。

次に、審査の第一段階として、提案書等をもとに各選定委員が10票ずつ、事前に済ませた、「予備投票」の集計結果について共有し、投票数の少ない者から順番に各委員が提案書等に対する印象・専門的知見からの講評を交えた意見交換を行い、二段階目の投票に残す候補者の選定を行った。

1票獲得が16者、2票獲得は17者、3票獲得は2者、4票獲得は1者であり、このうち14者が二段階目の投票の対象となった。【表1】

第二段階として、当該14者の提案書について、予備投票による投票数が少ない者から順番にレビューを実施し、選定委員間の評価軸の多様性を尊重し共有と合議を尽くした後、各選定委員が5票ずつ、2回目の投票を実施し、二次審査対象者として6者を選定した。【表2】

【表1】第一次審査における予備投票結果

投票数	対象者数	審査 No.
6票	－	該当者なし
5票	－	該当者なし
4票	1者	40*
3票	2者	16*、23*
2票	17者	1*、2*、5*、11、13、15*、18*、19、27*、33*、34、39、43*、46、49、54、61
1票	16者	3、8、9、22、24、25*、26*、31、32、41、42、44、48、51、58、59*
0票	25者	4、6、7、10、12、14、17、20、21、28、29、30、35、36、37、38、45、47、50、52、53、55、56、57、60

計 61者

注1) ※は第二段階へ進んだ者 注2) 審査 No.は提出書類受付順

【表2】第一次審査における2回目投票の結果

投票数	対象者数	審査 No.
6票	1者	23*
5票	－	該当者なし
4票	4者	16*、25*、40*、59*
3票	1者	26*
2票	－	該当者なし
1票	5者	2、15、18、27、43
0票	3者	1、5、33

計 14者

注3) ※は第二次審査対象者

### (3) 第3回選定委員会（第二次審査）

日程： 令和7年11月24日（月・祝）

場所： 花巻市文化会館・大ホール

概要： 公開プレゼンテーションは、第二次審査に進んだ6者からそれぞれ、実施体制及び提案書に関する15分のプレゼンテーションを実施後、選定委員からのヒアリングを実施した（※発表順は当日の朝、提案者によるくじ引きで決定）。

ヒアリング終了後、提案書並びにプレゼンテーション及びヒアリングなどを踏まえ、非公開で審査を行った。

審査では、各提案に対する良い点と課題点について各選定委員の所見を開示しながら、本事業に求められる価値の実現可能性を多面的な角度から議論を尽くし、丁寧な合意形成を図った上で、最優秀者（優先交渉権者）及び次点者を選定した。厳正な審査の結果、選定委員会の総意として、最優秀者（優先交渉

権者)に昭和設計・t デ・山田紗子建築設計事務所共同企業体、候補者(次点)に西澤・畝森設計共同企業体を選定した。

## 4 講評

### (1) 全体講評

第二次審査に提出された6者の提案は、どれも深い経験に裏打ちされた精査を重ねた練度の高い提案であり、その中からひとつだけを選ぶ作業は非常に難しいものでしたが、選定委員間でそれぞれの価値観、評価軸の多様性を尊重しながら真摯な議論を重ね、この結論に至りました。

図書館というプログラムに対し、本と人との普遍的な親密性と、将来的に大きく変わっていくであろう社会的要請の変化のバランスの中において、本プロポーザルにおいては、駅前という利便性の高い場所が図書館敷地として選ばれた意味をくみ取り、使い勝手の良さとしての空間の具現化と、市街地再生の起点として長く市民に親しまれ、利用価値を最大化できる図書館を、厳しいコスト管理の下で短い期間の中で練り上げなくてはならないという課題があります。こうした難しい課題に対し、多大な労力を費やし、真摯に取り組んでいただいた皆様に、深く感謝を申し上げます。

### (2) 個別講評(第二次審査対象者)

○昭和設計・t デ・山田紗子建築設計事務所共同企業体 C者(No.26)《最優秀者(優先交渉権者)》

各ジャンルの図書が連坦しながら、豊かな空間が生み出されている柔軟な構成をもつとともに、時間外利用ゾーンの空間の魅力や、広場に小さな空間を張り出させてその魅力化を図るなどユニークさを併せ持つ提案であることが評価されました。また、可変性のある閉架ゾーンを中心に、多様な空間を配置する構成は明確であると評価されました。計画全体に、身体知をきっかけにした余地を意図的に設けるアプローチは、賢治の精神とも呼応するとの意見もでました。

「市民ライブラリアン」の提案は可能性を備えている一方で、その実現のためには、今後の体制作りが不可欠であり、行政や関係者を含めてさらなる議論が必要であると評価されました。

また、複数の事務所、学識者が関わるチーム構成は魅力的で、プレゼンテーションにおいても、若い設計者の視点と経験豊かな学識者の融合が、期待を持って受け止められましたが、実施段階でそれを担保できるかは不透明な部分も多いとの意見も出ました。

しかしながら、最終的には、そのあたりの課題を乗り越えることが出来る強さを備えていると判断され、最優秀者として選定されることになりました。

○西澤・畝森設計共同企業体 F者(No.23)《次点者》

新花巻図書館整備基本計画においては、蔵書数を長い期間をかけて段階的に構築することが想定されています。計画された冊数も、快適な閲覧空間と延面積の限定などと向きあって具現化しなければなりません。提案は、今回のプログラムが潜在的に有するそうした課題を的確にあぶり出すとともに、人口減少が課題となる地域の状況を見据え

て、事業の再調整をも視野に入れた骨太なものでした。

様々な居場所となる魅力的なアルコーブから構成された全体からは、利用者がそれぞれにお気に入りの場所を見つけ出す様がイメージできる優れた構成となっている点も評価されました。

その一方で、避難安全検証法の採用と将来的な変更を積極的に想定することに設計思想として矛盾があるという点や、アルコーブを魅力的かつ安全に運営するためには、図書館を運営するスタッフにかかる負荷が大きく、それを現段階で想定することが困難であるとの意見がでました。

これらの意見を勘案しながら審査委員会で慎重に議論をしましたが、花巻市の図書館としての発展性から考えると、C案に卓越する点を見出すことは残念ながら困難であったため、次点者として選定されることとなりました。

(以下、発表順)

○C+A・木村設計 A・T 共同企業体 A 者 (No.40)

公開プレゼンテーション及び選定委員からのヒアリングまでを含め、全体構成として非常に洗練されており、現代の図書館のあるべき機能を丁寧に満たしている点で多くの審査委員を唸らせました。

その一方で、地方都市において重要な地上階の魅力の醸成に不確定な要素が多く、実現には運営上の多大な追加投資が必要となるのではという懸念が提示されました。

○キッタン・スタジオ・ウエスト設計共同企業体 B 者 (No.25)

要綱の条件を拡張してユニークな構成を目指す本提案は、一次審査においては、その可能性に期待できるのではないかと踏み込んだ判断が行われて残されたものです。二次審査において、具現化に必要な地下構造物との取り合いの整理や大きな建築面積の取り扱いなど、解かなければならない課題について、期待したほどの解像度での回答は得られませんでした。

○有限会社マル・アーキテクチャ D 者 (No.16)

まちの状況を丁寧に精査した真摯な提案で、その実現方法についても具体的に考えられている優れた提案であると評価されました。禁欲的に見える外観についても厳しいコスト条件を考えた結果ではないかと推察されましたが、花巻市民を中心に人々がこの空間に集い、永く親しまれるような空間までの魅力を有しているかについては、疑念が残るのではないかという意見が大勢を占める結果となりました。

○FULL POWER STUDIO 株式会社 E 者 (No.59)

本棚でインテリアランドスケープを構築する提案が、コストを抑えながら新しい図書館環境を具現化する可能性があるのではと評価され一次審査を突破したものです。二次審査においては、美しいコンセプトは提示されましたが、将来にわたって段階的に計画蔵書数を構築していくなど、実務的な課題のひとつひとつに丁寧な理解と真摯な解決方

法の提示を見いだすことが出来ませんでした。積雪時の外部階段の使用が困難であることや祝祭時や降雪時における広場の使い方の扱いも疑念が残るものとなりました。